

組織部速報

2019年4月26日
No. 33

あれから14年

JR福知山線脱線事故を風化させず、

安全最優先の職場をつくろう！！

2005年4月25日9時18分頃、JR福知山線・塚口～尼崎駅間において快速電車がカーブを曲がり切れずに脱線、線路脇のマンションに激突し、乗客106名と運転士が死亡、562名が負傷する大事故が発生しました。

事故の背後要因として「営利優先、運行第一」とする企業体質や、ミスを起こした社員に対して「日勤教育」と称する懲罰的な社員管理があったことが指摘されました。

あれから14年、脱線事故現場は「祈りの杜」という慰霊施設が完成しましたが、施設の壁面はすりガラスに覆われ事故現場が見えなくなっていました。

事故発生時刻である9時18分、貨物労組関西地本の仲間は事故現場で黙禱・献花を行い、亡くなられた御霊に哀悼の意を表しました。そして事故を風化させず安全を最優先する職場風土をつくっていくことを改めて決意しました。

マンションに激突した車両



14年が経過した脱線事故現場

